

薬局でのオンライン資格確認システムの利用件数の増加が内服薬薬剤料と薬の三要素に与える影響の研究

要旨

日本の調剤医療費は重複投薬を要因として増加している。患者の保険資格を確認するオンライン資格確認システムには、薬剤情報の共有によって重複投薬を発見する機能があり、調剤医療費の適正化が期待されている。

先行研究から海外の医療機関間の薬剤情報の共有が過剰処方を減少させたことは分かっているが、日本の薬局・医療機関間の薬剤情報の共有が重複投薬を減少させるかは分かっていない。

このような背景を踏まえて、本研究では都道府県レベルのデータを用いて、薬局でのオンライン資格確認システムの利用件数の増加が、内服薬薬剤料と薬の三要素（薬剤の種類数・一種類当たりの投薬日数・一種類一日あたりの薬剤料）に影響するか分析した。分析手法としては、薬局の参加率を用いた DID 分析と拡張モデルであるイベントスタディと、患者の利用件数を用いた固定効果モデルを使用した。結果として、オンライン資格確認システムの利用件数の増加は内服薬薬剤料を減少させる効果があり、薬剤の種類数と一種類一日あたりの薬剤料に対しては限定的な減少効果があると考えられた。この研究は、重複投薬の抑制による調剤医療費の適正化政策を検討する際の知見となると考える。